

田中 潔

医学論文の書き方 (第4版)

(A 5判 134頁 1,957円(税込) 1991年 医学書院刊)

児島 忠雄

(東京慈恵会医科大学形成外科)

多くの学会、研究会があって、それぞれの会誌が発行され、また商業誌も多く発行されており、現在は情報過多の時代である。このような時代を迎えて、医学研究者も論文を発表する機会が多くなってきており、ワープロで書かれるのが一般的とさえなってきた。

医学論文を書く場合、初心者は他の似たような論文を参考にして書き、先輩や教授にみてもらい、論文の書き方を覚えていくのが一般的であろう。しかし、先輩や教授の大多数の方も、医学論文の書き方について教育を受けたわけではなく、多少なりとも自己流の部分があることは否めない。私自身についても漫然と医学論文の書き方を先輩、教授から教えていただき、それに句読点の打ち方などの本を読んで経験的に対処してきており、本書のような著書を積極的に読むことはしなかった。

本書は医学論文を書こうとする人、何編か論文を書いた人、また指導にあたる人も必読すべき書である。本書は1968年に初版が、1982年に改訂増補第3版が発行された。しかし、その後ワープロやパソコン利用の原稿作成法の普及、印刷技術の変革に伴う電算写植とオフセット印刷の普及によって改めるべき部分が出てきたため、今回全面改訂されたものである。

本書はまえがき、本文の書き方、文献の書き方、表の書き方、図の書き方、欧文抄録と欧語論文、校正の仕方、学会発表、あとがき、から構成されている。まず医学論文の種類と構成から始まり、原稿の書き方、句読点の打ち方、横文字の記載法、改行の仕方などが懇切丁寧に書かれている。次にワープロで原稿を書く人も多くなっている、その利点、欠点、使用上の注意が述べられている。さら

に標題とその符号のつけ方、正しい日本語、美しい文章について触れ、「日本語の良さは主語はわかり切っている場合は省略できる点にあり、……」と述べている。絶対に仮名書きにする語、なるべく仮名書きにする語、原則として漢字を使用する語が挙げられ、大変便利である。文献の書き方では、孫引き文献は絶対に文献欄に掲げない、本文に出た人名を文献名欄に掲げないことは許されない、などの初心者にとって重要なポイントとともに、表、図の書き方、欧文抄録の書き方、校正の仕方の原則的なことが書かれている。

また、豆知識と題して、総括、結論、抄録の差異、共著者の意義など16編の短い記載があり、すべて必須の知識である。

あとがきに「書くことは正確な人間を作る」といわれるが、たとえ機械に書かせるにしても、機械に命令する人間の頭脳が正確でなければ正確な入力ができない」とあるが、本書は著者の述べられておられるとおり、「正確な人間」になるための修業に役立ち、医学論文を書く人にとって座右の書というべきであろう。